

令和5年度 絵画科日本画専攻 出題意図

1次 鉛筆素描

観察力、構成力や基礎的な描写力の有無を判断するための出題である。

テーブルの上に背中合わせに3体の石膏像（ヘルメス）を配置し、そこから2体以上を選択して構成することで、対象を切り取り画面に構図する考え方、空間認識力、また絵画としての意識を持って全体のバランスを捉えられているかを評価の対象とした。

2次 着彩写生

各自がモチーフを組むことにより、構成力・出題意図をどのように解釈したかを見る。高さを抑えた出題により、平面上に展開するモチーフ間の主従関係を自ら設定する絵画性や構成能力を判断する。モチーフの一部に受験生本人の描画を加える課題により絵作りや発想力の能力を評価する。平面上の位置関係を見る力、空間認識能力、明度・彩度を含む色彩感覚を持ち、それらを表現する力があるかを判断するための出題である。モチーフそのものの実感や、質感等の様々な違いが描き分けられた上で、全体のバランスがとれているかも大切な評価基準である。